

ひらはたの石塚(下泷)

下泷の北方の丘陵にひらはたといつところがあり、その峠のいただきに、高さ約五メートル、周囲約二〇メートルばかりの大きな石塚があり、通称これを「ひらはたの石塚」といつている。

ちいさいのでこぶしくらい、大きいので頭くらいの無数の石塊を、ピラミッド形につみあげ、その頂上にもみの小木が一本植えられている。

この道は、吉野口、今木方面から、下泷、下市へ越えてくる旧街道で、大峯山におまいりをする修験道の行者たちは、千石橋を渡って下市から河川へはいるか、または吉野川沿いにさかのぼり、柳ノ渡をわたって吉野山を経て山上へいくかのいずれかの道をとったが、いずれもこの峠を越えたので、むかしはかなりにきわい、頂上には茶屋もあった。

このままでくると、大台、大峯の諸山が一望のうちに眺められるので、行者たちはこの道を第一の行場として、身を正し旅の安全を祈願した。

そしてこのあたりは、岩塊が多くて歩きにくい山道であったところから、いつのころからか行者たちは、その石

るを拾ってそれを頂上へはこんで石塚をつくることが、是非しなければならぬ信仰行事として習慣化されるようになって、今のような石塚がいくつかわたるところにいつわけである。

交通機関の変遷によつて、今はこの道を通る人のすがたはまったく絶え、生いしげる雑草に埋れてしまっているありさまであるが、それだけに、そういうなかに残されていく信仰遺跡をみると、よけいにゆかしく先祖たちの心が徳をわびぬ。

なお、かつてその石を、持ちかえって家の礎石にした者がいたが、その人はたちまち重病にかかったばかりでなく、家運も衰微したといつてよい伝えがあり、今はだれもそれにまわることもしない。